



**星の清里協同組合
過疎地の活性化を！**
杉田 勝典（公明党）



問／星の清里協同組合に期待する効果は。
答／人材育成の重要な拠点であり、農地保全や地域の農業振興、活性化に期待している。

外国人市民の労働実態と多文化共生の取組は

問／外国人労働者の労働実態や課題は。
答／現時点で大きな課題はないが、就労条件の良い大都市圏を希望する傾向や、労働力不足等による国際的な人材獲得競争が起りつつある。
問／市民と外国人市民との多文化共生の取組は。
答／市民プラザに上越市国際交流センターを設置し、様々な取組を行っている。外国人市民の増加に伴うニーズの変化を捉え、多文化共生の推進を図っていく。

移動市長室や市民と市長との対話集会の成果

問／事業の成果や要望等への対応は。
答／市民の切実な声や提案から、地域課題やまちづくりの率直な思いが聴けた。施策に反映できる提案等は、関係部局で検討する。今後も対話の取組を継続したい。

北陸との連携で幅広い通年観光を目指す

問／北陸との連携や相互観光戦略も必要では。
答／既に北陸等と広域連携を図っている。引き続き、様々な広域連携により観光振興を図る。



**上越市を日本海側最大の
物流拠点に！**
高橋 浩輔（みらい）



問／物流を取り巻く環境変化への対応はどうか。
答／当市は複数の広域交通の結節点である。その機能の維持向上のため、直江津港と上越ICを結ぶ都市計画道路の整備や直江津港のカーボンニュートラル化、[※]モーダルシフトに対応するためのJR黒井駅の利便性向上等、企業と行政が連携し物流環境の変化に柔軟に対応していく。

問／物流環境の変化により、輸送手段を鉄道に変更する動きが加速している。貨物輸送を強化して通過料収入を増やすことで、えちごトキめき鉄道の収益構造を強化することはできないか。

答／現在、日本海ひすいラインには1日10往復の貨物列車が運行している。貨物を増やしていく取組は大切だが、ダイヤの関係等様々な条件や制約があり、現状では難しいと考える。
問／将来世代に残す「資産」として、上越市を「日本海側最大の荷物の集積地・物流拠点」として整備し、地域経済の更なる活性化を目指すべきと考えるがどうか。

答／時代は大きな変化が起きている。様々な変化の中で、できるだけ新しい情報を得ながら、産業や文化がどこに向かっていくのかを見据えつつ、物流についてもその流れの中で考えていかなければならない。「物流拠点の整備」も心に留めながら政策を発展的に考えていく。

※モーダルシフト：環境負荷の少ない輸送手段へ転換を図ること。



**防犯カメラ設置で
子どもの安全対策を**
ストラットン 恵美子（久比岐野）



問／これからの人口減少社会で子どもを見守るため、通学路や公園にカメラを設置する考えは。
答／設置には、プライバシー保護や犯罪行為そのものを直接的に阻止できない課題がある。防犯には、地域で見守り、支え合っていく体制の構築が有効であり、現時点で設置の考えはない。

修学・教育旅行を通じた観光振興

問／当市への修学・教育旅行の受入れ状況は。
答／十日町市と連携している越後田舎体験事業では、民泊や農業体験を提供しており、令和3年度は35団体、約2,600人を受け入れた。

問／広域連携による課外学習提供の有効性をどう捉えているか。また、当市への修学・教育旅行に広域連携を取り入れ、提案していく考えは。
答／津南町や妙高市の宿泊施設を利用した大規模校の受入実績がある。十日町市との取組を基本に、更なる連携の必要性を調査・研究する。

問／社会課題を取り入れたスタディツアーや産業振興を学ぶ教育旅行等は、通年観光を掲げる当市において観光振興のヒントになるのでは。
答／学習指導要領の改定で、今年度、新たに探求学習プログラムを商品化している。当面は農業・雪国生活体験などを通じた学びを主体に、市内の学校を含め、広く受入れを進めたい。

